

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 147

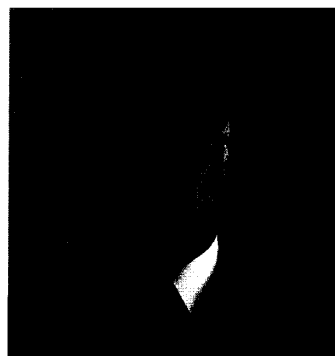


2004. 4

- 分かれ道(附属図書館長) ● シリーズ“すばらしい本の世界” ● 図書館からのお知らせ ● 利用者から見た図書館
- 平成16年度附属図書館利用セミナー実施のお知らせ ● 図書館利用案内 ● 図書館案内図 ● 図書館の動き

分かれ道

附属図書館長 番場公雄



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは国立大学法人静岡大学が設置した静岡大学が迎える最初の入学生となりました。これは平成16年4月1日をもって、文部科学省に設置されていた全国の国立大学は、それぞれの国立大学法人が設置する大学に転換する、いわゆる国立大学の法人化に伴う措置によるものです。

法人化は、国立大学に対する国の関与を出来るだけ縮小することにより、大学運営における自主・自律性を高め、教育・研究のレベルを高めると共に、個性化を図りやすくするための措置とされています。集中指令センターのコントロールのもとに固定されたレールの上を列車が走っていた鉄道路線を従来の国立大学と例えれば、法人化後の大学は、路線を自由に設定して運行できるバス路線に転換したような違いがあります。社会のニーズを考え路線を自由に決定

し、サービス向上を図ることが今後の大学経営で求められることになります。

本学は開学以来55年間の歴史を有していますが、その間に築かれた校風や伝統を基礎にどのような大学づくりをしていくかが今後の大きな課題となります。附属図書館に蓄積した膨大な図書館資料も、教育や研究実績と共に静岡大学の伝統の主要部分を構成しているものです。図書館は大学の教育研究活動にとって不可欠な存在であることは、法人化後においても基本的には変わりありません。しかし、急速に進む電子情報化への対応、他大学附属図書館あるいは公立図書館との連携を通じて特色化を図るなど、本図書館にとっても大きな分かれ道に差し掛かっていることは間違いありません。

さて、新入生の皆さん、大学入学を果たし、人生の基本路線が決まったと勘違いをいませんか？医学系学部や教育学部のように卒業後に特定の職業に就くことを目的として設置され

ている学部では、入学時点で卒業後の方向性がかなり定まってきます。本学の教育学部を例にとっても、平成15年度の正規採用教員就職率は全国で第7位と高い順位に位置づけられていますが、それでもその割合は40%弱とされています。教員養成課程以外の大部分の学科では、より多くの分かれ道がこれから待ち受けていると思われます。さまざまな情報をもとに適宜軌道修正をしながらも、常に目的意識を持ち、大きな分かれ道に差し掛かった場合でも、自分の進むべき道を的確に選べる知識・能力を教養教育や専門教育を通じて身につけてください。

次に図書館の概要を紹介いたします。「大学における学び方」を学ぶ授業科目として1年生を対象に新入生セミナーが開講されていますが、その授業の一コマを用いて図書館利用セミナーが実施されます。このセミナーでは図書館の利用方法とパソコンを使用した図書や雑誌の検索方法が説明されますので、それを機会に図書館を大いに活用していただきたいと思います。もし講義を受けられなかった場合は、授業とは別に同じ内容のセミナーが実施されますので受付カウンターでお尋ねください。

最近、インターネットなど電子媒体を通じて多くの情報が簡単に入手できるようになりました。大学図書館での代表的なものとして電子ジャーナルとデータベースなどがあります。これらの情報には学内からのみ閲覧できます。例えば電子ジャーナルでは研究室に居ながら約3,200の外国雑誌に発表される最新の論文をパソコン画面上で見たり、プリントアウトしたりすることが可能です。また、他大学の図書館資料や国際的な学術論文等の情報検索をCD-ROMやインターネットにより効率的に行うシステムもあります。これらの情報収集方法は卒業論文や修士論文作成の時期になれば必要不可欠なものとなりますので、出来るだけ早い時期から習熟するように心がけてください。しかしインターネットを通じて得られる情報は個別の事項については詳しく説明されているものの、総合的あるいは

体系的という点では不十分なものが多いようです。もちろん事典代わりに利用するのはお勧めします。

静岡キャンパスにある図書館本館正面玄関に入ると、“Tolle lege 手に取って読みなさい”と書かれた銘板を見ることが出来ます。図書館に収蔵されている数多の図書も諸君の手にとって読まれて初めて生かされるものであることを伝えようとするものです。図書館には諸君の手に取られることを待っている膨大な数の図書や雑誌があり、その仲介役を果たすのが先に述べた検索機能です。

最近、暗黙知と形式知という言葉がよく使われるようになりました。形式知は言葉、図表、写真などで説明できる知識であり、暗黙知とは、存在することは分かっているが形式知のように説明できないものを言います。暗黙知は熟練工だけが身につけているコツのようなもので、研究手技にもそれに近いものはたくさんありますが、大学の講義で教える知識は形式知と言えます。講義で話されること、教科書に出ていることをはるかに上回る形式知が図書館に収納されています。現在の単位制度では、授業は本来学習すべき時間の3分の1を当てているに過ぎません。残りの3分の2の時間に図書館に出向き、是非図書を手に取って読んでください。

さて、海で幼魚期を過ごした後、県内河川には春はアユ、真夏にはハゼの仲間であるヨシノボリの若魚がいっせいに遡上を開始します。河川の上流に向けてひたすら遡上をする姿を見るにつけ、日本人から消えて久しい、ひたむきさを感じます。若い諸君には目的に向かってひたむきに努力する姿がよく似合うし、それを期待しています。(農学部 生物機能化学)





私家版

「情報」おもしろ本案内



松王 政浩

情報という言葉は、依然として時代の最たるキーワードの一つである。学生諸君も、きっと「情報」に関する本を読みたい（読まなくちゃ）と思ってきたことだろう。確かに、図書館や書店には、情報に関する本が溢れているのだけれども、何をどう読んでいったらいいのかわからない、という人も多いのではないか。あるいは、中には「情報関連の本」＝「パソコンやインターネットのハウツー本」と思って、とっつきにくさを感じてきた人もあるだろう。

「情報」は広く解釈すれば際限なく解釈の幅がひろがるので、「情報」に関する中身の濃い本を読みたい。とすると、とりあえず「コンピュータ」や「インターネット」を勸どころとして外したくはない。けれどもハウツー本に走りたくはない。これが、今回私の想定する勝手なターゲット読者である。そこで、こうした読者の嗜好に合う「情報」関連の「おもしろ本」を、いくつか系統立てて以下、紹介したいと思う。ただ、私はもともと「哲学」の人なので、以下の本がどうしても、「哲学の色眼鏡を通して面白い」ものとなるきらいがあるが、そこはご容赦願いたい。

まず勧めたいのが、いまや日常ありふれた存在となった感のあるコンピュータやインターネットが、いったいどうやって形作られてきたのか、特にその「背景」を知ることでできる本である。これは技術史と言えば技術史だが、そこにはプロジェクトXも真っ青のドラマがあり、思想があり、人間の情熱がある。こうした本を読むこ

とで、情報技術が非常に人間くさいものに感じられ、かつその奥行きが感じ取れるだろう。

ここでは「インターネットの歴史」に関わる本をとりあえず一冊挙げておこう。その名も『インターネットの思想史』という本である。インターネットの主たる原型となるのはアメリカの軍事ネットワークのARPANETである。この創設に関わったJ.C.R.リックライダーの、「コンピュータと人間の共生」「ネットワークによる自由な知識の共有」という基本思想と、その実現へ向けた情熱が、筆者の緻密な取材と研究に裏打ちされて、読者に熱く伝わってくるであろう。

こうしたインターネット草創期の思想は、その後、いわゆる「ハッカー」と呼ばれる人たちに引き継がれたと言ってよい。ここでいうハッカーとは、不正な侵入者の意味ではなく、寝食忘れてプログラム作りに没頭する人たちのことである。この人たちが現在、コンピュータ文化のみならず、社会にも大きな影響を与えつつあると考えられ、こうした人たちの思想について読むことは、「情報」について理解を深めることにつながるだけでなく、読んでいて非常に面白い。一番のおすすめは、フィンランドの若手哲学者ペッカ・ヒマネンが書いた『リナックスの革命』である。これはオープン・ソフトウェアのリナックスがもつ社会的な意味を、きちんと思想史的裏付けをしながらわかりやすく書いた本で、ポップでありながら重厚であり、結構やみつきになる。これを読んだ人は、同じリナッ

クスをハッカーの視点で思想的に分析した『伽藍とバザール』に進むとよいだろう。

次に、現在のコンピュータの基本的な仕組みとその理想に関わるおもしろ本を何冊か紹介しよう。取っつきやすいのは、チューリングに関する本である。チューリング・マシンは現在のコンピュータの原型であるだけでなく、私たちの「心」についての一つのモデルでもある。このモデルの可能性について、たいへん面白く書かれている『ロボットの心』、『コミュニケーションを科学する』を推薦しておく。加えて、コンピュータに関わる基本思想のおもしろさに触れたい人には、『思想としてのパソコン』、『情報技術と経済文化』、『本の未来はどうなるか』がおすすめである。この3冊はV.ブッシュのメモックスという、理想的ハイパーテキスト論に関する部分がとびきり面白い。いずれも、「コンピュータ」について、読者の意識が一皮むけ

ることは間違いない。

最後に情報技術と社会の関係に関わるおもしろ本を紹介してしめくくろう。この手の本もかなりの種類があるが、私たちの想像力をくすぐり、いろいろな思索に導いてくれると思うテーマとして、私たちにとって現実とは何かという深い問いにもつながる「バーチャル・リアリティ」と、近年急速に進みつつあると思われる「社会の監視化」を挙げたい。前者については、『ヴァーチャルという思想』『仮想現実のメタフィジックス』『世界コミュニケーション』『シミュレーションの思想』がお勧め。後者については、『監視社会』が骨のある、かつ興味尽きない分析をしていてお勧めである。

以上、非常に駆け足の紹介だが、ここに紹介した本がきっかけとなって、諸君が「情報」の豊かな世界を垣間見ることができればと思う。

(情報学部 情報コミュニケーション)

【紹介された本】 (静＝静岡本館／浜＝浜松分館)

『インターネットの思想史』喜多千草著

静・浜／開架[547.48/KI61]

『リナックスの革命』ペッカ・ヒマネン著

静・浜／開架[007.3/H59]

『伽藍とバザール』エリック・S・レイモンド著

静・浜／開架[発注予定]

『ロボットの心』柴田正良著

静／開架[081/KO19/S1582] 浜／開架[007.1/SH18]

『コミュニケーションを科学する』

NTTコミュニケーション科学基礎研究所

静／開架[発注予定] 浜／開架[007.1/KO69]

『思想としてのパソコン』西垣通・編著訳

静／開架・浜／開架[007/N81]

『情報技術と経済文化』今井賢一・編著

静／開架[007.3/I43] 浜／開架[発注予定]

『本の未来はどうなるか』歌田明弘著

静／開架[081/C64/S1562] 浜／開架[発注予定]

『ヴァーチャルという思想』フィリップ・ケオー著

静／開架[発注予定] 浜／開架[007.1/Q3]

『仮想現実のメタフィジックス』マイケル・ハイム著

静・浜／開架[発注予定]

『世界コミュニケーション』ノルベルト・ボルツ著

静／開架[361.45/B62] 浜／開架[316.45/B63]

『シミュレーションの思想』広瀬通孝ほか著

静／開架[007.1/H72] 浜／開架[発注予定]

『監視社会』デイヴィッド・ライアン著

静／開架[発注予定] 浜／開架[007.3/L99]

情報コンセントに関するお知らせ

図書館には利用者用パソコンがありますが、個人のPCを持ち込んでの利用も可能です。浜松分館では、現在28口の情報コンセントがありますが、さらに48口増設いたします。1階と2階閲覧室の南側壁面に設置します。なお静岡本館では5階閲覧室東側36席の机に情報コンセントの接続口があります。

※参考URL：<http://bssv2.adb.shizuoka.ac.jp/gakunai/guide/icguide.html>

利用者から見た図書館



私の図書館利用体験

電子科学研究科博士後期課程 3年

沈 浩明

私が静岡大学にいる期間は6年目になりました。図書館を頻繁に利用しています。

最初に浜松分館に入ったときに受けたのは小さいという印象でした。2階建てで館内のスペースも広いとは思いませんでした。しかし、利用回数を重ねていくと、ここが無限の情報へのアクセスポイントだと感じるようになってきました。

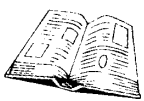
院生の私にとって論文や論文誌が一番大事な情報源です。浜松分館の2階には工学や情報系の論文誌や専門の雑誌が並んでいます。しかも和文雑誌と欧文雑誌の両方が充実しています。最新号は新着棚の一番前に置いてありますが、バックナンバーは新着棚の中やバックナンバーコーナーに保存されています。何年も前の古いナンバーは書庫にあります。私は何回も書庫に入り、数十年前の論文を探したことがあります。必要な文献が見つかったら、その場で読むか館内に設置されているコピー機を利用して気軽に持ち帰りもできます。

本を探すのがとても面倒と思う方には、静岡大学蔵書検索(OPAC)の使用を薦めます。図

書館に行かなくてもインターネットを通じて大学所蔵の本や資料を探すことができます。私はいつもまず研究室で本の番号や貸し出し状況を確認してから図書館に借りに行きます。

さらに、論文などの文献を探すときは図書館が提供しているデータベースや検索エンジンを使えばとても便利です。日本全国および全世界で公表された文献を調べることができます。ほとんどの場合、文献の概要やアブストラクトまでの情報が得られます。また、もう1つ私がよく使うのは日本の大学図書館間の貸し借りと文献コピーサービスです。他の大学図書館にある資料がほしいときは静岡大学の図書館に申し込めば、本を借りることやコピーをとることができます。ただし、このサービスは私費か公費の負担で費用が発生します。無料で論文の全文を読みたい場合は、最初に電子ジャーナルを探したほうが一番いいです。学内のネットワークにつながっているパソコンからであれば、多くの学術雑誌の電子版を全文で読むことやプリントアウトすることができます。

最後に、浜松分館では1階と2階にそれぞれに新聞コーナーと教養雑誌のコーナーがあります。そして1階の南奥の本棚に多くの図鑑が置いてあります。勉強や研究に疲れたら、そちらへ足を運んでみれば一休みが取れます。



図書館利用について

農学部農学研究科・院生 佐野 智一

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。授業、サークル活動、また、これらを通したさまざまな出会い、体験に期待を膨らませているものと思いますが、そんな皆さんへ私なりの図書館の利用法、また図書館についての体験を紹介してみたいと思います。

とはいうものの、最近でこそ、それなりに図書館に出向くようになっていますが、私自身は

実は三年の後期になるまで、図書館に足を運んだ回数は数えるくらいしかありません。日々の生活のうち、大体がサークル活動や趣味、バイトの時間に費やしていましたから…。

では、私がなぜ最近になって図書館に赴くようになったかといえば、レファレンス、なるもののためです。これは学会誌や、専門書など、研究の参考文献として必要なものを有料でコピー・郵送してもらうシステムで、全国の大学附属図書館や研究所が所蔵しているものが対象となります。ですから、たとえば静岡大学附属図書館

にない文献でも、レファレンス係で頼んでおけば、それが手に入れることができます。これはなかなかすごいもので、全国で数箇所にしかな蔵されていない文献でも簡単に手に入れることができます。最近では樹木の種子の散布に関する有名な文献をいくつか手に入れました。

専門的なことをはじめてからは、それなりに図書館に赴くことが増えてきたわけですが、図書館に足を運ぶにつれて、もっと図書館で本を読んでおきたかった、と感じるようにもなりました。とくに専門的なことではなく、もっと学問の根本に関する本（たとえば哲学書であるとか…）をもっと読んでおけばよかったなと最近特に感じます。現在社会的に重要視されている、教育問題であるとか、環境問題であるとか、それらの問題は根本的な部分から考えていかないと、表層的な、上っ面だけの議論で終わってしまう可能性があり、また現在のそれらの問題に対する取り組みもまたそんな上っ面なところで

終わってしまっているように思えてなりません。もっと深い次元まで物事を考えて議論していく必要があります。またそのためには基本的な部分の理解が必要となります。そのため、新入生の皆さんには、そんな所も学んでいくことを薦めます。

そんなわけで、最後に一冊お勧めの本を一冊紹介しておきます（といっても実は私自身最後まで読み終えた本ではないのですが、最初の数ページを読むだけでも、色々考えさせられる、面白い本です）。少し昔のものですが、静大の附属図書館にも所蔵されているので、一度手にとって見るのも悪くないと思います。では、皆さんが楽しく、有意義な大学生活を送れるよう願っています。

【紹介された本】

『構造と力～記号論を超えて～』 浅田彰著 勁草書房
（静岡本館／閉架 116.9/A81）
（浜松分館／開架 116.9/A81）



図書館を「学習の場」に

教育学部教育学研究科・院生 室伏 孝美

大学での学習は高校生までの形態とは大きく異なり、レポート・レジュメ等作成のために、たくさんの文献を探し出し、読みこなすことが多くなります。高校生までは図書館と無縁でも、日常の学習活動になんら不便さを感じることはありませんでした。そんな私が図書館を頻繁に利用し始めたのは、大学院の入学試験の勉強を始めたときからです。図書館には朝日、毎日、読売新聞をはじめ多くの新聞が設置されています。また英字新聞も置いてあるので、教員採用試験や英語の学習をしたい時には、とても役に立ちました。また、平日は夜の10時まで開館しているので（公立の図書館でこの時間まで開館している図書館はありません。）試験前やレポート提出前など、集中して学習したいときや、文献・資料を徹底的に探したいときなどに、時間を気にせず安心して利用することもでき、とても助かりました。図書館の環境もここ数年間で

大分整備され、学生にとって居心地のいい利用しやすいスペースになりました。図書館のホームページから、図書館にある蔵書、雑誌等の検索ができ、自宅にいながらにして資料の確認もできます。論文検索も簡単にできるのでとても助かりました。また、資料検索の折、行き詰っても図書館でレファレンスサービスを受けることができるのでとても助かりました。図書館を利用するに伴い、図書館という存在の重要さを痛感します。日々の生活の中でもっと早く図書館を利用していればよかったという思いが強くなる昨今です。個人で手に入れることのできる資料には限りがあります。図書館には膨大な情報・資料がいっぱいに詰まっています。学習する時だけでなく、暇があったら皆さんも気軽に図書館をのぞいてみてはどうでしょうか。思わぬ発見もあるはずです。最後に、図書館を利用して気になったことをひとつ言いたいと思います。それは利用者のマナーが守られていないということです。よく携帯電話が鳴ったり、

大きな声で話している姿が目につくことがあります。図書館をより利用しやすいものにするた

めにも、利用する側の私たちもしっかりマナーを守ることが必要だと思います。

私の図書館利用方法



～図書館で興味を広げよう～

情報学部情報社会学科3年

佐々木 真知子

皆さんは、図書館をどのように利用していますか。学習の場として利用している学生が多いと思います。私も、レポート作成等で必要な本を図書館で探すことが多いです。しかし、授業で必要な本だけでなく、興味のある分野の本やおもしろそうだった本も読みます。図書館には様々な分野の本があり、自由に借りて読むことができます。そして、おもしろい本がたくさんあります。例えば、芸術分野の書架では、様々な画集や写真集を見ることができます。実際に購入するととても高価なものであったり、手に入りにくいものであったりという本もあります。ふだんはそういった本を読まないという人も、図書館でなら気軽に読むことができるのではないのでしょうか。文学の書架でも、同じことが言えます。普段は小説を読まない人も、自

由に読むことができます。また、名前は知っていても読んだことがない作家の本を読むこともできます。今、話題の本は書店で購入、もしくは立ち読みすることにして、昔の偉人の言葉に耳を傾けてみてはどうでしょうか。私は、10世紀の学者、オマル・ハイヤムを図書館で読みましたが、彼の著作である、人生の苦悶や望み、憧れを歌った「ルバイヤート」は、今読んでも「なるほど」と頷けるものがあります。専門と異なる分野でも図書館では勉強することができます。語学、政治、科学など理系の本でも文系の本でも自由に読んで、学ぶことができるのです。

図書館で、気になった本があったら、ぜひ手にとってみてください。そして、読んでみてください。もしかすると、その一冊が様々な分野へと興味を広げ、これからの研究に続いていくかもしれません。一冊一冊に、これからの大学生活を素晴らしいものにする可能性があるのです。

【紹介された本】 『ルバイヤート』

静岡／開架[929.91/KH]

浜松／開架[908.3/40/68](世界文学大系68)

平成16年度

『附属図書館利用セミナー』実施のお知らせ

新入生の必須科目である新入生セミナーのひとコマを利用して、図書館の基本的な利用方法を習得してもらいます。これをきっかけに図書館へ気軽に足を運び、今後の学習・研究に活用していただきたいと思います。

◆実施時期：平成16年4月中旬～7月上旬（静岡・浜松両キャンパス）

セミナー実施日は新入生セミナー担当教官ごとに決まっています。

◆内 容：1. 図書館の利用法

2. パソコンによる検索実習

3. 書庫内ツアー（静岡キャンパス）、館内ツアー（浜松キャンパス）

◆実施場所：静岡キャンパス 図書館5階第2閲覧室（ハーベスト・ルーム）

浜松キャンパス 図書館2階視聴覚室（SCSメディアルーム）

◎ セミナー期間中は ハーベスト・ルーム 及びSCSメディア・ルームの利用制限があります。

なお附属図書館利用セミナーを受講できなかった新入生及び学部編入生については別途にライブラリー・オリエンテーションの開催を予定しています。詳細は図書館ホームページと掲示板にてご案内する予定です。

新入生のためのQ & A

図書館利用案内

Q 図書館はどこにあるの？

A 静岡キャンパスに静岡本館、浜松キャンパスに浜松分館があります。

Q 本はどうやって探せばいいの？

A 附属図書館のホームページから蔵書検索システムOPAC（“オパック”と読みます）で静岡大学にある資料を探することができます。タイトルの一部や著者名などを入力して検索してください。「所在」のところにその資料が置いてある場所が示されています。図書館にあるパソコンでも探せますし、自分の持っているパソコンがインターネットに接続しているなら、自宅からでも調べられます。古い図書（静岡本館の場合は1986年以前、浜松分館の場合は1989年以前に受入）はカード目録も調べてください。

Q 本を借りたいんだけど…

A 学生証があれば借りられます。

図書は大きく分けて開架と閉架（書庫内）に分かれています。開架の図書は自由に見たり、借りたりできます。開架の図書は自動貸出装置を使って自分で処理ができます。

閉架の資料は静岡本館の場合はカウンター前に置いてある「資料請求票」に必要事項を書いて、カウンターへ出してください。浜松分館の場合はカウンターにお申し出ください。閉架の図書も同じように借りられます。

Q 何冊まで、どれくらいの間借りれるの？

A 学部の学生の場合は、5冊2週間です。ただし1度に限り貸出期間の延長（更新）ができます。この手続きをしてから2週間延長して借りることができます。

大学院生は10冊まで1ヶ月間借りられます。ただし、静岡本館の場合は開架の資料は誰でも5冊まで2週間になります。浜松分館の場合は大学院生は開架の資料でも10冊まで1ヶ月間借りられます。

Q 他キャンパスにある本が読みたい。

A OPACで調べると欲しい本が浜松分館（静岡本館）にしかない…こんな場合は本を取り寄せることが出来ます。申込み用紙がありますのでカウンターまでお越しください。料金はかかりませんが、1週間くらい時間がかかります。 ※貸出できない場合もあります

Q 欲しい本がない！

A 検索するときのキーワードが間違っていないですか？キーワードを減らす、単語ごとに区切るなどして再検索してみてください。それでもない場合には他の大学から資料を取り寄せることができます。

Q 静大にないけどどうしても読みたい！

A こんな場合は他大学などから資料を取り寄せることができます。資料の一部を複写したものを取り寄せる文献複写と、資料そのものを借りてくる相互貸借があります。文献複写の場合は複写料金と送料がかかります。相互貸借の場合には往復の送料がかかります。詳しい内容は図書館カウンターまで問い合わせてください。

そのほかに図書を購入して欲しいという依頼（リクエスト）もできます。

Q 雑誌は読めますか？

A 静岡本館は4階の雑誌コーナーに、浜松分館は2階閲覧室に雑誌を置いています。専門雑誌だけでなくAERAやNumber、文藝春秋などの雑誌や、就職ジャーナル（静岡本館のみ）なども置いています。バックナンバーも揃っています。

Q 雑誌は借りられますか？

A 雑誌はできるだけ館内で読むか、コピーしてください。どうしても借りたい時には静岡本館の場合は午後4時から翌日の開館時間内まで、浜松分館の場合は当日から翌日まで貸出ができます。この場合でも最新号は貸出できません。

Q 何時まで開いてるの？

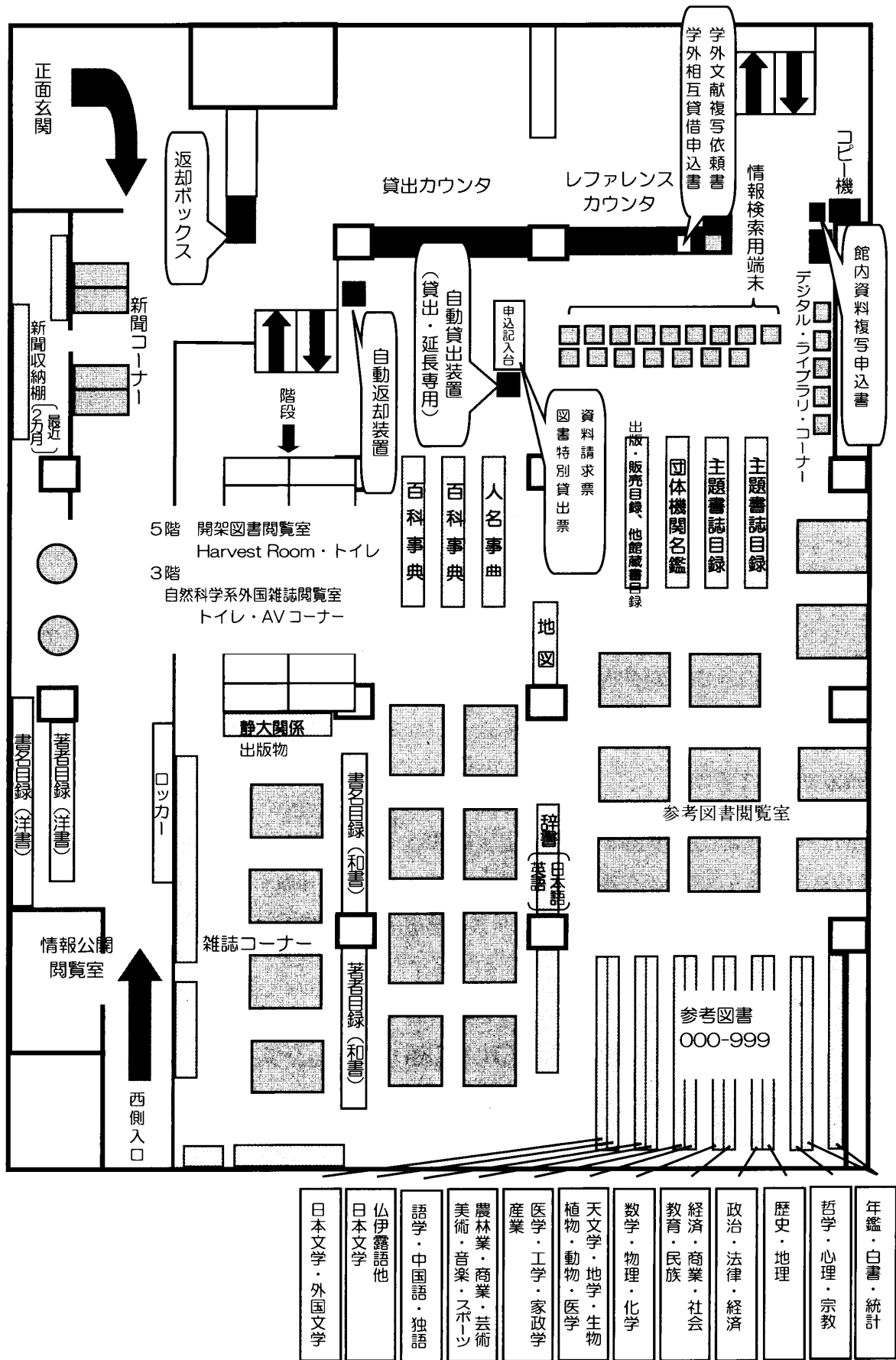
A 通常は午前9時から午後10時まで開館しています。土日や祝日などは午前9時から午後7時までです。夏休みや冬休みは平日が午後5時までになります。臨時に休館することもありますので注意してください。詳しくは附属図書館ホームページか図書館掲示板をご覧ください。また、サービスによって時間が限られることがあります。

著作権について知っておこう

著作権とは物を書いたり音楽や映画などを作ったとき、その作者（著作者）に発生する権利のことです。図書館にある資料にも、もちろん著作権は存在しています。ですから自由に複写をすることはできません。ただし、図書館においては条件付で複写をしても良いとされています。図書についてはその一部分（半分以下をめやすとします）、雑誌については一つの記事（論文）の全部（ただし最新号は除く）の複写が可能です。

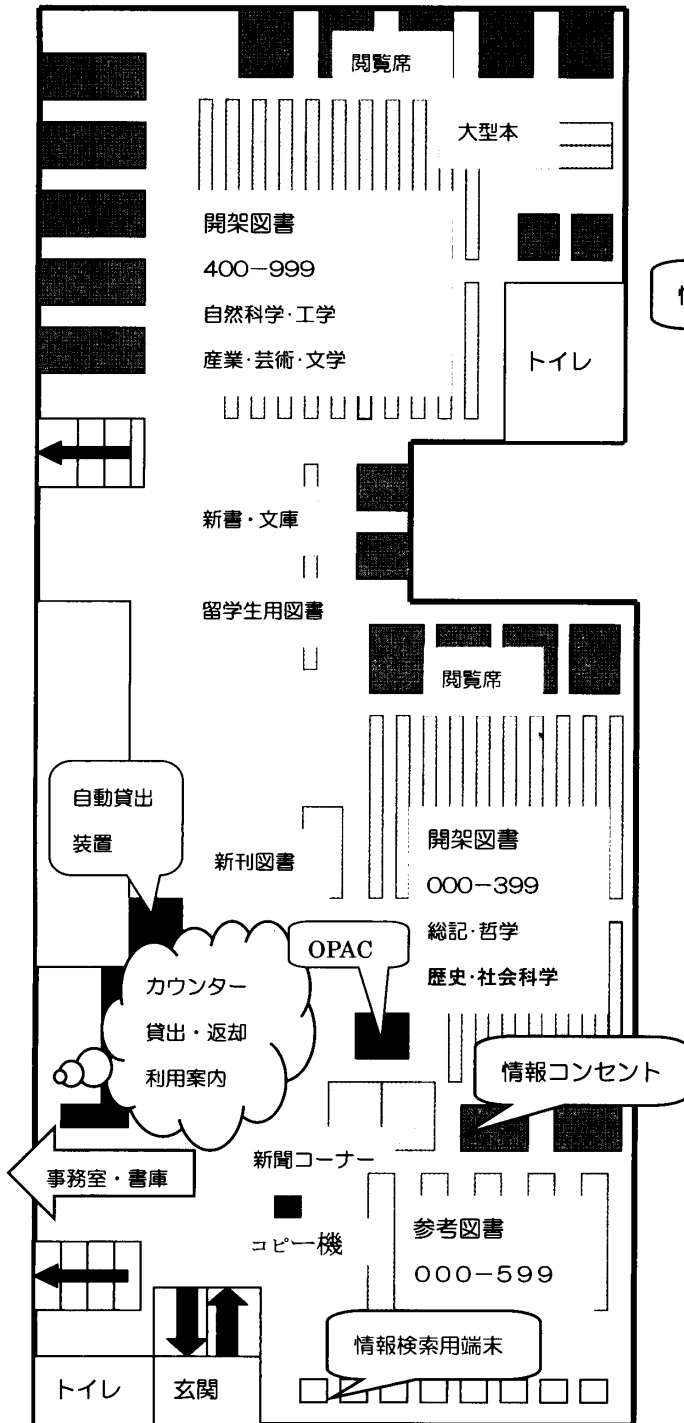
図書館の資料を複写する場合は複写機そばに用意しております「複写申込書」に記入してから、コピーしてください。

《図書館本館4階案内図》

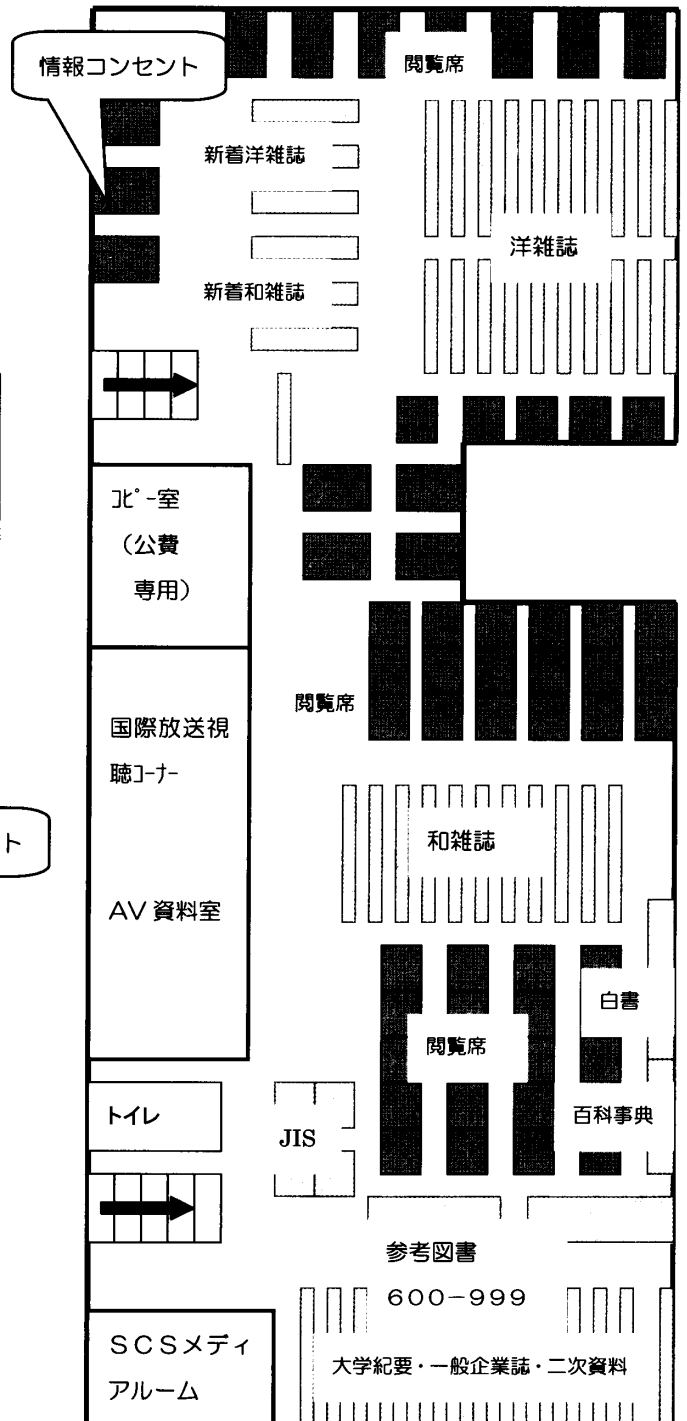


<<浜松分館案内図>>

1階 閲覧室



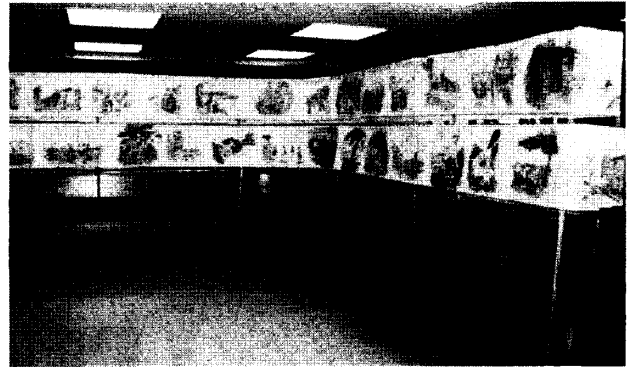
2階 閲覧室



図書館の動き

◆展示会

静大祭期間中を含む平成15年11月10日(月)～30日(日)に理学部との共催による「絵巻 遥かなる子供たち」(うるし・ひろ作)の展示を附属図書館閲覧室にて行いました。



◆会議

平成15年度第3回静岡大学附属図書館委員会
平成15年12月15日(月)

○審議事項

1. 附属図書館関連規則の改正等について
2. 転出に伴う図書の管理換について

○報告事項

1. 分館ワーキングについて
2. 附属図書館中期計画に基づく年度計画について
3. 電子化・学術資料(電子ジャーナル、2次資料データベース)について
4. 外国雑誌目次速報データベース(Swetscan)について
5. 平成15年度学生モニター会議について
6. 情報収集講座及び文献検索ガイダンスの実施について

7. 研究室備付貸出図書館資料の点検について
8. その他

- ・第89回全国図書館大会について
- ・図書館展示の実施について
- ・電子ジャーナル、2次資料データベース利用状況について

◆人事異動

平成16年2月13日付 育児休業開始
杉浦 昭重(レファレンス係)

平成16年2月13日付 採用〔臨時的任用〕
橋本 智子(レファレンス係)

開館カレンダー(静岡・浜松共通)

2003年4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	
	26	27	28		30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				6	7	
	10	11	12	13	14	
	17	18	19	20	21	
	24	25	26	27	28	
	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
		①	2	3	4	
	7	8	9	10	11	
	14	15	16	17	18	
	21	22	23	24	25	
	28	29	30			

※6月1日は創立記念日のため休館です。

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
		20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	

8月						
日	月	火	水	木	金	土
	2	3	4	5	6	
	9	10	11	12	13	
	16	17	18	19	20	
	23	24	25	26	27	
	30	31				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	
		21	22		24	
	27	28	29	30		

□ 開館 平日 9:00～22:00

□ 開館 平日 9:00～17:00 (長期休業期間中)

■ 開館 土・日・祝祭日 9:00～19:00

※ 開館日・開館時間は変更されることがあります。臨時に休館する場合は別途お知らせします。

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第147号

(平成16年2月27日発行)

発行所 静岡大学附属図書館 〒422-8529 静岡市大谷836 Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/home.html>

(再生紙使用)